

こども通信

塚田こども医院

小児科・アレルギー科
漢方内科
.....
上越市栄町 2-2-25
TEL 025-544-7777(代)
025-544-7779(保育室)
FAX 025-544-8456
.....

各種ネット予約
www.0255447777.com/i
ホームページ
www.kodomo-iin.com

ようやく過ぎやすい季節になりました。コロナも一段落。少しは体と心を休ませたいものです。

* * *

政治が動いています。自民党の新

総裁に岸田氏が就任。今月開かれる国会で内閣総理大臣に指名されることになり



ます。これまで9年間ほど続いた安倍・菅政権が終わり、新たな政権になる。そう思うと多少なりとも期待する気持ちにもなるのですが、さてどうでしょう

岸田氏の選挙中の発言を聞いてみると、筋を通そうという姿勢が段々と

萎えてきたように見えます。初の記者会見では、質問への答えは言葉数

が多く、丁寧ですが、中身は十分ではないようにも思えました。

まだ「新人」なのですから、いきなり辛口は良くないですね。しっかりと見守っていききたいです。

岸田氏は64歳。私(院長)と同じ年齢。一般社会とは違って、日本の政治界では若い方です。本人は自分の良いところは「人の話を聞くこと」と言っています。歳をとって頑固になっ

てきている老政治家が多いけれど、国政を誰に、どの党に任せるのか問

思い切って若手に役割を担わせてほしいです。

これまでの政権では、国会では質問をばべらかし、議論にすらならな

い。記者会見もまともに関かず、開

いてもほんの形だけ。と

ても国民の声に耳を傾けるといふ姿勢は見られませんでした。

われます。

日本の投票率は残念ながら低い

です。民主主義の国

で、国民の意思を示す最大のチャン

ス。

政治に注文や意見があるのなら、ぜひ投票所に足を運びましょう！

感染症情報

当地では夏前からRSウイルス感染症が大きな流行になり、それが収束に向かうころ、次にヘルパンギーナの流行が始まりました。現在はそのヘルパンギーナもピークアウトし、収束に向かっています。

いずれも毎年夏に流行するウイルス性感染症ですが、去年は全く発生がありませんでした。新型コロナ感染症の影響と思われるが、徹底した感染対策が別の感染症に功を奏していたともいえます。しかし、流行が起きないことで、免疫を持たない年代が増えるために、次の流行はとて大きな規模になることがあります。今年の夏かぜの流行がまさにそうでした。同様に、インフルエンザの流行が昨冬に起きていないため、やはり次のシーズンがかえって心配な状況です。

その他では溶連菌感染症とアデノウイルス性咽頭炎が少数発生しています。感染性胃腸炎も少し発生があります。全体には子どもたちの健康状態は良いようです。

新型コロナウイルス感染症の第5波はとて大きかったのですが、ようやく下火になりました。首都圏を中心に与えられていた緊急事態宣言は9月末で解除になりましたが、完全な収束はまだ先です。気を緩めることなく、引き続き感染予防に務めてください。

またワクチン接種は重症化を防ぐ意味でもとて重要です。12歳になったら接種できます。市から接種券が送られてきますので、その案内にしたがって、ぜひ受けてください。

今月の予定

院長・副院長出務

- 市立谷浜小学校就学前健診 6日
- 市立たにはま保育園健診 6日
- 県立看護大学臨床小児科学講義 13、20日
- 上越市夜間診療所勤務 20日(副院長)
- 私立わくわくちびっこ園健診 26日
- 市立有田保育園健診 26日
- 私立聖母保育園健診 27日

上越有線放送 「健康ライフ」 19日

FM上越「Dr. ジローのこども健康相談」
毎週木曜午後1:20頃～(76.1MHz)

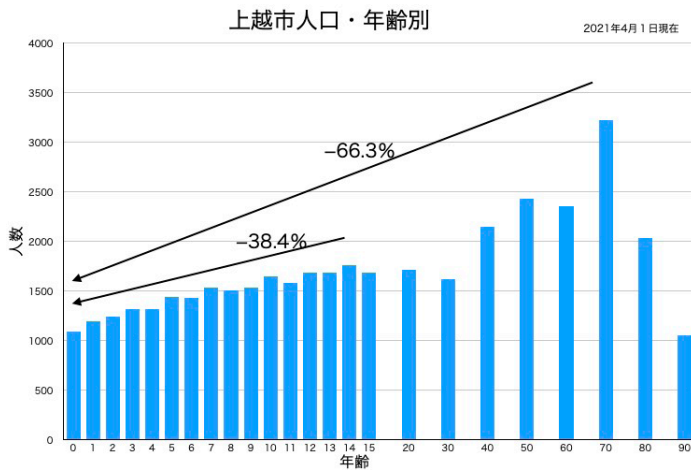
感染症情報(毎週)

- FM上越: 木曜午後1:35頃～
- 上越有線放送: 月曜午後6時～(番組内)
- 医院ホームページ内

いずれ子どもゼロ??

今月末に新しい上越市長が誕生します。3期12年続いた村山市長が引退し、その後継者が選挙で決まります(24日公示、31日投票)。

複数の方が立候補の意思を示して、すでに運動していますので、選挙になることは確実です。これからの上越市政をどのように舵取りし、どんな将来像を描いているのか、それぞれの候補者からしつかり聞き取



り、投票に臨みたいと思っています。

●少子化社会について

各候補からはいろんな公約が出されることでしょう。喫緊の課題は**新型コロナウイルスへの対応**。確実に感染を防ぎ、普通の社会生活に戻していく方策をどのように考えているのか、気になります。

中長期の課題で重要なのは「**少子化対策**」です。当市だけではなく日本全体の課題ですので、国レベルの対策も必要ですが、地方都市として一歩でも先んじた対応が必要です。このままでは「沈没」してしまうのではないかと思えるほど、実は緊迫した状況です。

●上越市の厳しい現状

学校に通う子どもが少なくなり、学級数も減ってきた・そんな実感を持っている方も多いと思います。

上越市の人口構成を調べてみました。グラフは今年4月1日時点での年齢別人口数です(15歳までは全ての年齢、それ以降は簡易的に10歳おきの年齢で作成)。衝撃的です!

まず注目すべきは、**子どもたちの人数がほぼ毎年減り続けていること**です。14歳の1754人に対して0歳は1084人と、4割近くの減少です。この上越市で生まれてくる子どもたちが確実に減少しています。0歳は新型コロナウイルスの影響もあるのかもしれませんが、他の年齢は違います。国レベルでも自治体レベルでもそれなりの対策は講じているはずなのですが、結果はこうです。

次に、**高齢者の人口数も気になります**。70歳を例にとると3217人。これは**0歳児の3倍**です。

1945年の終戦から5年ほど経ち、社会の混乱が治つてくるといわゆるベビーブームがおきました。多い年で270万人の出生があり、その時に生まれた方々が、今ちょうど70歳前後にいます。世にいう「団塊の世代」です。

ちなみに近年の出生数は100万人を下回り、昨年は84万人。今年はさらに少なくなると予想されています。ピーク時の3分の1以下にまで減っています。上越市の人口構成も全く同じ傾向を示しています。

もう一つ注目すべきなのが、**20代、30代といった若い世代が少ないこと**です。都市部など、他へ流出していることが良くわかります。

働き手であるだけでなく、新たに結婚して家庭をもち、子どもを生育する大切な世代です。その人口が少ないのですから、当然子どもの数も少なくなつてしまいます。

●少子化対策の切り札は?

上越市においてこの少子化傾向がそのまま進んでいけば、いずれ子どもゼロになつてしまうことも決して冗談ではない話になります。

若い方々が、この地で安心して生活できる環境を作ること。そのためにはしっかりと雇環境と、安定した収入が必要です。結婚し、子どもを生むことが容易にできるような条件を整えない限り、少子化対策が成功することはありません。

少子化対策は目先の問題はなく、実は日本の社会構造そのものを変えていくことに他なりません。それだけの大きな政策を実行できる新市長の出現を期待しています。